

★ここが知りたい!★ 米沢市立病院紹介

⑫

しょうがきないか ☆消化器内科編☆

消化器内科では、主な検査として胃カメラ(上部消化管内視鏡検査)や大腸カメラ(下部消化管内視鏡検査)などを行っています。食道・胃・十二指腸・大腸の中を、電子内視鏡スコープと呼ばれるものを用いてモニターに写し、直接観察します。第二内科長の松田剛医師(写真:右)にお話を聞いてみましょう。



Q カメラ(内視鏡)では、どんな検査や治療をするのですか？

A 食べ物が通る食道から肛門までや、肝臓・胆のう・膵臓すいぞうの検査を行います。内視鏡検査は、胃カメラでは食道・胃・十二指腸を調べ、大腸カメラでは肛門・直腸・S状結腸・下行結腸・横行結腸・上行結腸・盲腸までを調べます。また、肝臓から十二指腸まで胆汁を運ぶ胆管や膵臓等を調べるためには、ERCPという検査を行います。

内視鏡的治療は、胃カメラでは早期の胃がん・表在型食道がん(粘膜の浅いところまでのがん)・食道静脈瘤じょうみくこぶ(粘膜の下の静脈が拡張して食道内がボコボコとなる)の治療、大腸カメラでは大腸ポリープ切除や早期の大腸がんの治療、大腸が閉塞した場合にはステントと呼ばれるチューブを用いて液体や食べ物の通り道をつくる治療も行います。また、総胆管では、結石を取り除いたり、細くなった場合にはステントの治療も行っています。

▼ 次の症状がある人は、早期治療を行うためにも早めに受診されることをお勧めします ▼
心窩部痛(みぞおちの痛み)や吐血、血便やしつこい便秘、いわゆる全身倦怠感や黄疸 など

◆問合せ/市立病院総務課経営企画室 ☎22-2450 ◆ホームページ/ <http://yonezawa-city-hospital.jp/>